

# ライブラリーニュース【9月号】

## 笠商の推薦本！

各教科の先生方がみなさんへ推薦する本をご紹介します。

### 商業



#### 牛に化粧品を売る

どこでも買える商品を「うち」で買わせる接客とは？

人口4000人の山間部、岡山県新見市で、12年連続売り上げ日本一を達成した化粧品のカリスマ販売員が、地元密着商法のすべてを語る。

### 理科

#### もしも原子がみえたなら

あなたは原子をみたことがありますか？  
そこらじゅうにあるけれど、空気と同じように目でみることができない原子について、その種類や性質などを、イラストを用いてわかりやすく紹介します。



#### だれが原子をみたか



原子の存否をめぐる永い永い論争史。単なる歴史的な解説ではなく、ガリレイからアインシュタインまで、それぞれの時代の科学者の探求を著者自ら実験で再現しながら、だれが原子の決定的な証拠をみたかを追っていく。

## 校長先生の読書日記～7月編

<年間100冊への道>

◆堤 未果『ルポ 貧困大国アメリカⅡ』岩波新書 を読む  
前著『ルポ 貧困大国アメリカ』を読んだときのような高揚感が全くなく、何とか本文を読み切った。やれやれと思いあとがきを読む。これが良いのです。  
取材した女性曰く、「一番こわいものは（中略）、いつの間にか私たちがいろいろなことに疑問を持つのをやめ、気づいたときには声すら自由に出せない社会が作られてしまうことの方かもしれません」。著者の質問に答えるラルフ・ネーター曰く、「国は一、二度の政権交代では変わらない。国民の判断で、その洗礼を繰り返し受けることで初めて、政治も社会も成熟してゆくのです。本当の絶望は、国民が声をあげなくなった時にやってくる」。そして著者が言う、「民主主義はしくみでなく、人なのだ」。最後から読めば良かった。

◆「岡山には岡山文庫がある」そして貸出数・来館者数日本一の県立図書館がある！  
「不登校、校内暴力…、教育県岡山はどこへ行った！」という声が出て久しい。でも私は、岡山は立派な教育県だと今でも思っている。その理由は、岡山県立図書館の、貸出数、来館者数が何年にもわたり日本一であること。もう一つは、岡山文庫という宝物を持っていることを根拠としてあげたい。県立図書館は、いつも老若男女でにぎわっている。笠商図書館から、検索システムを使って県立図書館の本を借りるのも簡単だ。市中で販売される七割の本を読むことができる図書館は存在自体が素敵だ。  
そして、岡山県のすべてを、写真と文でとらえた一冊一冊が百科事典の一項目ともいえるべき岡山文庫。1964年から発行を続け、現在284冊。岡山の歴史、風俗、地理、人物等々何でもござれだ。今月読んだ岡山文庫で、私の住む地域が、源平合戦の古戦場だと知って吃驚（びっくり）した。地歴公民の教師として不明を恥じる次第である。

7月末までに読んだ本は62冊でした。100冊まであと38冊。

#### <7月に読んだ本一覧>

○今昔写真集「笠岡今はむかし物語」 指とまネット (7/1)	○織維王国おかやま今昔 猪木正実 岡山文庫(7/4)	○吉備の中山を歩く <笠商図書> 熊代啓士、健治 岡山文庫(7/5)
○おかやま文学紀行 富阪 晃 文芸社(7/8)	○美作ノ国吉井川 <笠岡市図書> 棟田 博 講談社(7/15)	○温羅伝説 <笠商図書> 中山 薫 岡山文庫(7/17)
○ぶらんこ乗り いしいしんじ 新潮文庫(7/18)	○つぶやき岩の秘密 新田次郎 新潮文庫(7/23)	○吉備物語(上) <笠商図書> 市川俊介 岡山文庫(7/25)
○おれのおばさん 佐川光晴 集英社文庫(7/27)	○ルポ 貧困大国アメリカⅡ 堤 未果 岩波新書(7/31)	